



# NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

## 第1回西東京糖尿病療養指導研修会 特大

去る6月20日(土)、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会共催の第1回西東京糖尿病療養指導研修会が、教育看護・病態栄養・薬剤の各専門分野に分かれて、国分寺周辺3会場で開催されました。遠くは鹿児島・青森など全国より約540名の方が受講されました。各専門分野の講師陣のご講演に、受講者は熱心に耳を傾けていました。各研修会について、ご報告します。



西東京病態栄養研修会の会場の様子

### 担当理事からのあいさつとお知らせ

#### NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会副理事長 多摩みなみクリニック 宮川 高一

念願の日本糖尿病療養指導士1群認定の研修会を、日本糖尿病教育看護学会、日本病態栄養学会、東京都病院薬剤師会の諸先生方のご尽力を得て、多摩の地で開催できたことについて喜びに耐えない気持ちです。日本糖尿病療養指導士制度の維持・発展にとって、実地の医療機関で働いている療養指導士が確実に1群の点数を獲得していけるかが大きな課題と思います。また多くの方がしっかりと各専門職のスキルを向上させることは療養指導士としての仕事の内容を深く広くすることに役立つと思います。

しかし実際には、勤務先から、「糖尿病関連の学会」のみでなく、「専門職の学会、研究会」にも出張することを認めてもらうことは容易ではないと思います。専門職の学会が地方で開催されるとすれば、交通費、宿泊費も馬鹿になりません。なんとか西東京に在住する、「日本糖尿病療養指導士」の方々が、地元で、「認定更新に必要な専門職、すなわち1群」の認定単位が取れないか、私自身、2001年に第一回の療養指導士が認定されたときから、どうしても設立しなかった、「会」でした。

幸い内容的にも好評で、成功裏に終了したことに、安堵の気持ちで一杯です。とりわけ、各研究会に、各関連学会の著名な先生方をお招きし、講義を賜ったことは、私たちにとって大きな刺激となりました。この場を借りて、御礼申し上げます。西東京の方ばかりでなく、全国からも多くの療養指導士が参加されたことから、「一群認定単位」の研究会の重要性、残念ながら希少性も再確認いたしました。当日参加者人数は看護系 235名、薬剤系114名、栄養系191名でした。成功した要因は各研究会ともメディカルの実行委員が企画立案した、すなわち自分たちの知りたいことから講義のプログラムを組んだ会であったからだと思います。

またこの研修会はNPO法人西東京臨床糖尿病研究会認定西東京糖尿病療養指導士の研修会でもあります。私たちの法人が認定した療養指導士の認定後研修としての役割もあり、その面でも大成功でした。最後にこれだけの研究会を支えてくださった事務局や実行委員の方々に深謝いたします。

## 西東京糖尿病教育看護研修会プログラム

共催：日本糖尿病教育看護学会・NPO法人西東京臨床糖尿病研究会



ご講演中の  
河口てる子先生

テーマ「糖尿病患者のQOLを高める看護師の役割」

講師：日本赤十字看護大学 河口てる子

座長：東大和病院 小柳 貴子、杏林大学医学部付属病院 浅間 泉

テーマ「看護師に知って欲しい！薬の知識」

講師：大田西ノ内病院 朝倉 俊成

座長：日本看護協会 和田 幹子

テーマ「知りたい！糖尿病の妊婦さんの生活支援」

講師：杏林大学付属病院 福井 トシ子

座長：東京医大八王子医療センター 松尾 美穂

### 第1回西東京糖尿病療養指導研修会（・）

### 西東京糖尿病教育看護研修会

報告 （社）日本看護協会 看護師 和田 幹子

第1回西東京糖尿病教育看護研修会は、季節はずれの猛暑に劣らぬ暑い1日となりました。NPO法人西東京臨床糖尿病研究会副理事長の植木先生による「研修会への期待の言葉」で幕を開けた教育看護系研修会は、青森から福岡まで250名以上の糖尿病教育に熱心な看護師の参加により、活気あふれるものとなりました。

最初の講演は、日本糖尿病教育・看護学会理事長の河口てる子先生（日本赤十字看護大学）より「糖尿病患者のQOLを高める看護師の役割」というテーマでご講演いただきました。河口先生の参加者に問いかけるような話術に引き込まれ、気がつくと自分がどのように患者さんに関わっているかを思い起こしていました。「患者さんに食事療法を守ることを当然のごとく言い続けてはいないか」「食事療法の必要性はわかっている、行動ができない患者さんを「置き去り」にしていないか」「『失敗体験』と思わせてしまうような関わりをしていないか」等々、反省は次から次へとわき起こってきます。河口先生からご教示いただいた「成人の効果的な学習」や「未来型患者教育に対する提案」を参考にして、患者さんのQOL向上を目指して行こう！と考えたナースは多かったことと思います。

「看護師に知って欲しい！薬の知識」については、専門誌等でお馴染みの朝倉俊成先生（太田西ノ内病院）にご登壇いただきました。インスリンの結晶の動画を使った説明や、ご自身が行った研究をスライドで示しながらの講演は大変説得力のあるものであり、「モノ」である医療品の特性と危険性や、スタッフの常識が必ずしも患者の常識ではないことがとてもよくわかりました。また、太田西ノ内病院での「インスリン指導の流れの実際」について参考にしたいと考えた参加者は多かったようです。朝倉先生のユーモア溢れる講話は、時間の経過を忘れさせ、「あっという間の2時間」でした。

臨床では、糖尿病妊婦さんへの生活支援に対して、自信を持っていないながらも一生懸命向き合っているナースが多いのではないかと思います。今回の福井トシ子先生（杏林大学医学部付属病院）に講演をお願いしたのは、そのような声を反映させたものでした。福井先生は「教えて！糖尿病の妊婦さんの生活支援」というテーマで、事例を示しながら、様々な社会背景を踏まえた妊婦の支援の方法や、支援の実際を伝えてくださいました。そこでは「糖尿病を持つ女性が自分について語り、その語りを共有できること」の必要性と、「糖尿病合併妊婦の支援は、チーム医療によってのみ可能であること」の理解について特に強調されました。

先生方の魅力的な講演内容に触発され、3講演とも質疑応答が非常に活発におこなわれました。講師が降壇されてから、追いかけて質問をする場面もあり、参加者の熱意が伝わってきました。参加者の感想からも、とても有意義な研修会だったことが伝わり、次回開催を期待する声が多くきかれました。そうした声に応えるべく、来年の第2回西東京糖尿病教育看護研修会は、ますます充実したものとなるように企画をしております。どうぞ、次回も期待してくださいね。また、今回の研修会では、開催直前に日本糖尿病教育・看護学会の共催として「日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位；自己の医療職研修（第1群）」4単位の取得が可能となりました。関係者の皆様と、本研修会にご賛同・ご協力をいただいた皆様に心から感謝致します。

## 西東京病態栄養研修会プログラム

- 10：35～12：35 糖尿病療養指導における栄養士の役割～臨床現場で必要とされる栄養士とは～  
 講師：鹿児島県栄養士会会長 立川俱子  
 座長：緑風荘病院院長 酒井雅司
- 13：30～15：30 糖尿病専門医が望む栄養指導～こんな栄養指導は療養生活を駄目にする～  
 講師：東京医大八王子医療センター内分泌代謝教授 植木彬夫  
 座長：緑成会病院内科部長 調進一郎
- 15：40～17：50 栄養士による療養指導の実際 —パネルディスカッション—  
 クリニックにおける療養指導 高村内科クリニック管理栄養士 高村香代子  
 一般病院における療養指導 緑風荘病院栄養室 藤原恵子  
 中核病院における療養指導 公立昭和病院栄養科 南 晴男  
 大学病院における療養指導 東京医大八王子医療センター栄養科 福元敦子  
 座長：公立昭和病院栄養科 浦部康雄、緑風荘病院栄養室 西村一弘

第1回西東京糖尿病療養指導研修会（・）

西東京病態栄養研修会

報告 緑風荘病院 管理栄養士 西村 一弘

### 糖尿病療養指導における栄養士の役割～臨床現場で必要とされる栄養士とは～

立川先生は40年以上にわたり、様々な公務に加え患者教育の実践者として仕事をされてきたので、言葉の一つ一つに重みがありました。栄養教育は指導型ではなく支援型で行うことや給食管理の重要性に加え、一次予防に対する栄養士の貢献への期待や責務の重さについて話されていました。質疑応答ではCDE更新単位取得に関する質問が多く、座長の酒井先生からは、病院長の立場として栄養士のスキルアップは好ましいことであり、応援したいという心強いお言葉もありました。参加者全員が立川先生の100万\$の笑顔に癒され、漲るパワーを頂戴して翌日からの実践に結び付けられたのではないかと思います。



### 糖尿病専門医が望む栄養指導～こんな栄養指導は療養生活を駄目にする～

植木先生は患者教育の目的をもう一度見直して、血糖コントロールの改善や合併症予防だけが治療の目的ではなく、患者が健常者と変わらない人生を送ることが最終目的であることを話され、病態の基礎知識に加え、新たに先生が考えている何時に食べるか？どのようなスピードで食べるか？等々「時間」を軸にした患者教育への提案をされました。座長の調先生と植木先生は師弟関係にあり、お二人の先生の息の合った講演をお聞かせいただきました。植木先生はこんな栄養指導は患者を駄目にすると言われたいのための、講演をしてくださり参加者の心に残る内容であったと思います。

### 栄養士による療養指導の実際—パネルディスカッション—

西東京地域で活躍される4人の先生方から、クリニック・一般病院・中核病院・大学病院それぞれの立場で、療養指導の実際をご発表いただき、一部二部で座長・講師を務めてくださいました先生方にコメンテーターとして加わっていただいて、ディスカッションをいたしました。各先生方の日頃の素晴らしい療養指導が伺われ、西東京地域のレベルの高さに立川先生も驚いていました。ディスカッションの時間が足りず、十分な討議が出来ませんでした。質問用紙の質問内容は、後日事務局を通して質問者に各先生方からの回答を返答いたしました。

# 西東京薬剤研修会プログラム

共催：東京都病院薬剤師会・NPO法人西東京臨床糖尿病研究会

10:30～12:30 薬剤師糖尿病療養指導士像とは？～糖尿病患者のQOLを高める薬剤師の役割～  
 講師：大田西ノ内病院 薬局長補佐 朝倉 俊成  
 座長：井上 岳

13:15～17:30 テーマ「薬剤師糖尿病療養指導士は、何ができるのか  
 ～薬剤師糖尿病療養指導士って、何をしてくれるの？～」

- 講演：「ある薬剤師の考え」 北里研究所病院 薬剤部長 厚田 幸一郎
- パネリストディスカッション コメンテーター：公立昭和病院 貴田岡 正史、座長：厚田 幸一郎・井上 岳
- 看護師：「看護師から見た薬剤師に介入してほしいこと」 東大和病院 小柳 貴子
- 栄養士：「栄養士から見た薬剤師に介入してほしいこと」 東京医科大学病院 田中美佐子
- 患者会：「患者から見た薬剤師に望むこと」 青梅糖友会「梅の会」 副会長 内田 正明
- 保険薬局薬剤師：追加発言「保険薬剤師に受験資格を！」 シルバー薬局 森 貴幸
- 総合討論：「薬剤師はどうアピールしていくか」 コメント：公立昭和病院 貴田岡 正史

**第1回西東京糖尿病療養指導研修会（・） 西東京糖尿病薬剤研修会**  
 報告 東京都病院薬剤師会糖尿病領域専門薬剤師育成特別委員会委員  
 東京医大八王子医療センター 薬剤師 井上 岳

ご講演なさる朝倉俊成先生



薬剤系においては、国分寺Lサロン飛鳥（JR国分寺駅ビル8階）にて、北は青森から南は香川まで約140名の薬剤師が参加し、テーマである「糖尿病患者のQOLを高める薬剤師の役割」について、その現状と問題点、そして今後どうアピールしていくかについて活気あふれた議論が行われた。その中で、「スタッフと連携しながら、もっとインスリン指導に積極的に関わらなければならない」と強調されたが、薬剤師はどこまで指導できるのかなど、今後の課題として何らかの指針を導き出す必要性が示された。

追加発言としての保険薬局薬剤師の認定問題に関しては、貴田岡正史先生より、「日本糖尿病療養指導士認定機構の理事に厚田幸一郎先生がご就任されたので、薬剤師の意見が反映されると思いますが、まずは、一人ひとりが療養指導技術をスキルアップすることが必要であり、一人ひとりが努力を積み重ねていかなければなりません。」さらに、「現実にニーズがあれば、生活習慣改善に関する指導も行っていく必要があります。」と述べられ、研修会の幕を閉じた。

## 研修会情報

## 事務局からのお知らせ

9/11 第5回糖尿病予防講演会（吉祥寺、前進座）  
 ・日本糖尿病療養指導士 認定更新のための研修単位 <第2群>1単位 認定番号04-278  
 ・西東京糖尿病療養指導士 認定更新のための研修単位 2単位 認定番号 025号  
 が取得できます。

8月7日（土）～8月17日（火）は、夏季休業とさせていただきます。夏季休業中の事務局へのご連絡はできませんので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

<b>会員数</b>	<b>391人</b>
コメディカル会員	280人
医師会員	111人
管理栄養士派遣事業登録者数	34人

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会  
 〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 リエントプラザ402  
 TEL：042(322)7468 FAX：042(322)7478  
<http://www.nishitokyo-dm.net/>  
 E-mail:w\_tokyo\_dm\_net@ybb.ne.jp